

# 認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

平成22年3月

高崎市（群馬県）

## I. ポイント

○計画期間;平成20年11月～平成26年3月(5年5月)

### 1. 概況

本市中心市街地の活性化は、認定後、新たに2事業を追加し、「商都・高崎」の再生に向けた取組みを積極的に進めている。認定基本計画掲載の65事業（再掲を含む）の進捗状況は、事業完了が12事業、実施中が47事業、未着手が6事業となっている。活性化戦略のリーディングプロジェクトである「高崎駅東口拠点整備」「医療保健センター（仮称）・新図書館建設事業」を含め、概ね予定通り進捗している状況である。掲載事業以外にも、「高崎田町屋台通り」がオープンした（平成21年12月）ほか、空き店舗での「まちなか農産物直売所」の開設（平成22年4月予定）などにより、中心市街地回遊性の一層の向上を目指している。一方で、「高崎駅西口第四地区優良建築物整備事業」や「アーバンホテル地下改修事業」について、昨年からの経済不況による民間投資の冷え込みの影響で事業に遅れが生じている。

平成21年10月に実施した、歩行者・自転車通行量(休日)調査では、平成18年比で270人（1.2%）の増加となっており、ほぼ横ばい状態であるが、平成20年度比では、3,320人（17.2%）増加し、回復傾向に転じている。これは、高崎駅周辺（西口）土地区画整理事業で整備した東二条線の改良工事の完了に伴って東二条通りに若者に人気のある新規店舗等の開店やヤマダ電機本店の開店（平成20年7月）、各種文化事業による高崎文化の発信等による集客力の向上や、市道A631号線整備事業の完了、「全国都市緑化フェア」の開催（平成20年3～6月。来場者約160万人）に伴う田町通りの緑化や駅前通り（シンフォニーロード）のバリアフリー化等による回遊環境の向上等の相乗効果によるものと考えられる。

今後とも、活性化のリーディングプロジェクトである公共・民間事業の推進、「お濠周辺修景施設歩道整備事業」等の市街地の整備改善や「中心市街地活性化支援事業」、「まちなか魅力発信事業」等の積極的な推進と「市内循環バス「ぐるりん」市街地循環路線運行事業」の早期運行を行い、中心市街地の賑わいと回遊性の向上により数値目標の達成を目指すものである。

### 2. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値 (年)	目標値 (H25年)	最新値 (H21年)	見通し
高崎都市圏の地域活性化を牽引する、経済活力に満ちたまち	小売業年間商品販売額	970億円 (H19推計値)	1,200億円	平成23年度 フォローアップ	
市民の出会いと交流の舞台となる、賑わいあふれるまち	歩行者・自転車通行量(休日)	22,400人 (H18)	27,500人	22,626人	
音楽を中心とした“高崎文化”を創造・発信するまち	各種文化施設の利用者数の合計値	663,800人 (H19)	704,300人	平成23年度 フォローアップ	

- 注) ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。  
②取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。  
③取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。  
④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。  
⑤取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

### 3. 目標達成見通しの理由

活性化のリーディングプロジェクトなど大型事業の完成により、それらの事業効果が大きく見込まれることから、基本計画の着実な実行により、数値目標の達成は可能と判断される。

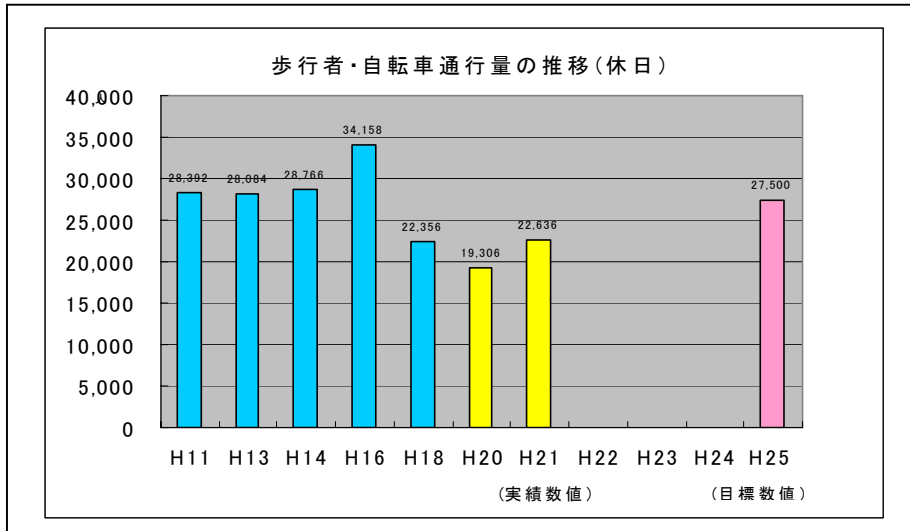
### 4. 今後の対策

今後とも基本計画掲載事業を確実かつ一体的に推進するとともに、中心市街地活性化協議会や関係機関との連携を強化し、基本計画の適正な進行管理を行い、必要に応じ、効果的な事業の追加や見直しを行う。

目標「(市民の出会いと交流の舞台となる、賑わいあふれるまち)」

「歩行者・自転車通行量(休日)」※目標設定の考え方基本計画P68~P71参照

1. 調査結果の推移



年	(単位)
H18	約 22,400 人 (基準年値)
H20	19,306 人
H21	22,626 人
H22	
H23	
H24	
H25	27,500 人 (目標値)

※調査月：10月

※調査主体：高崎市

※調査対象：休日の6地点 歩行者・自転車

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①スズラン新館増床事業

事業完了時期	【未】平成25年度
事業概要	スズラン百貨店の新館増床、駐車場、イベント広場整備。
事業効果又は進捗状況	<p>地元百貨店の集客力アップにより、中心市街地の西の商業拠点機能の強化を図り、商店街の活性化と回遊性の高まりを目指す。</p> <p>平成20年の契約駐車場の倒産に伴う債権処理、並びに埋蔵文化財調査など事業実施に向けた課題解決に取り組んでいる。平成22年度着工予定。</p> <p>新館利用者(1,544人)の80%がスズラン前の調査地点を、また、利用者(歩行者・自転車)の15%が他の調査地点を往復回遊するとして約1,600人の通行量を見込んでいる。</p>

②医療保健センター(仮称)建設事業

事業完了時期	【未】平成22年度
事業概要	保健機能と医療機能を備えた医療保健センター(新図書館との複合施設)の整備(地下1階、地上6階)
事業効果又は進捗状況	<p>市庁舎、音楽センターなど都市機能が集積した地区に隣接するJT跡地に、新図書館と一体で整備し、都市福利機能の向上により、中心市街地への来街者の増加を目指す。事業進捗率37.3%(事業費ベース。平成22年3月時点)。</p> <p>約70人/日の増加を見込んでいる。</p> <p>平成23年4月オープン</p>

### ③新図書館建設事業

事業完了時期	【未】平成22年度
事業概要	市内図書館サービス網の中心である拠点図書館として医療保健センター(仮称)と一体的に整備
事業効果又は進捗状況	中心市街地内に新たに図書館を設置することで、中心市街地への来街者の誘導を図る。事業進捗率38.4%(事業費ベース。平成22年3月時点)。 約490人/日の増加を見込んでいる。 平成23年4月オープン

### ④人工地盤(東口駅前広場ペDESTリアンデッキ)整備事業

事業完了時期	【未(一部完成)】平成22年度
事業概要	中心市街地の東の拠点ゾーンとして位置づけられる高崎駅東口周辺の安全・快適な歩行者空間を確保するために、東口駅前広場の機能拡張を図るとともに、ペDESTリアンデッキを中心とする歩行系空間の整備を行う。
事業効果又は進捗状況	一部完成済み(事業進捗率62.0%(事業費ベース。平成22年3月時点))。同デッキは、平成20年7月に開店したヤマダ電機本店に直結しており、集客による歩行者・自転車通行量を平成25年時点で5,300人/日と見込んでいる。参考として、駅東側コンコースの歩行者・自転車通行量は、平成18年度の28,046人/日から平成20年度には30,718人/日に増加している。

### 3. 目標達成の見通し及び今後の対策

- ・歩行者・自転車通行量に直接効果が期待される事業が、順調に進捗していることから、目標達成は可能と考えられる。
- ・掲載事業以外でも、「高崎田町屋台通り」がオープンした(平成21年12月)ほか、空き店舗での「まちなか農産物直売所」の開設(平成22年3月)などにより、中心市街地回遊性の一層の向上を目指している。
- ・今後とも、中心市街地活性化協議会をはじめ、関係機関、団体等の協力体制を強化し、基本計画の適正管理を行い、掲載事業の着実な実施を行う。